

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800997		
法人名	農協法人		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地	熊本県上益城郡山都町下馬尾288-5		
自己評価作成日	令和2年 11月 6日	評価結果市町村報告日	令和2年 1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和2年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が出勤時は「ただいま」、帰宅時は「行ってきます」という声をかけを行い、共に暮らしている、もう一つの家族であるという認識を高くもち日々のケアに努めています。おひとり、おひとりのニーズや思いをくみ取り、寄り添い、自宅と変わらない暮らしの提供を目指しています。本年は、コロナ感染予防の為、地域の方の慰問や地域への外出ができませんでしたが、この場所にグループホーム「やまびこ」という、認知症対応型の施設があるということは、地域住民のみなさんに広く理解されており、共に支えあうご近所という関係も長年の中で培うことができています。地域に自然にとけこみ、開かれたホームであり、認知症での困りごとの相談窓口にもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で長年暮らしてこられた高齢者が、新たな「家」で新たな「家族」と共に、入居者の「笑顔と思いを大切に自立した日々が送れるように」の理念のもと、穏やかな生活が営まれている様子が見られます。面談では職員体制が厳しい中にも協力しあい、毎月の「質の向上研修会」や職員会議での「業務改善」検討の様子が聞かれました。今年度は感染症対策の面から外出や面会受入れが難しい状況でしたが、限られた中、「入居者に一日笑顔で過ごして欲しい」の思いで日々のケアにあたっています。入居者の高齢化も進み、日々の生活の中での「役割作り」が課題となっているようですが、明確にされている課題に職員全体で向かっている様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型という意義を、職員全員が理解し住み慣れた地域で暮らせていけるように支援している。	入居者の「笑顔思いを大切に自立した日々が送れるように」と「おーい」と呼べば「はーい」と返す」の理念と思いは事業所のケアに継続されている。事業所全体で「家庭のような」ケアを一番にとの考えで支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街の中にあり、また開設から16年がたち施設が特別なものではなく地域のなかに自然になじむことができており一人の住民として暮らすことができています。	例年、地域の大きな催事である「八朔祭り」見学や子ども達の訪問等、入居者の人生に馴染んだ地域での生活が行われ、「気軽に寄って行って」のつきあいが行われている。今年度は感染症対策の観点から交流が難しい状況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでに、認知症サポーター養成講座や研修生の受け入れ等を行い、地域の認知症での困り事の相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度については、コロナ感染予防のため毎回の開催はできていないが、日頃より情報交換を行い、意見・質問等に対応し、サービスの向上に努めている。	会議資料の冒頭には運営理念を記載、事業所運営について示している。通信を利用し、食事作りや畑仕事で過ごす普段の様子を伝えている。今年度は感染症予防のため書面での開催を余儀なくされた回もあったが、会議メンバーから手紙が寄せられたこともある。会議では地域との繋がり・連携に向けた課題も話合っている。	通信では入居者の生活の様子がたくさんの写真で窺うことが出来ました。書面開催が仕方のない現状ですが、このような時期であるからこそ、多面から意見を得ることが出来るような仕組み作りに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会への出席や、コロナ感染予防対策情報や感染状況の共有等を行うことでホームの現状を報告する機会も増え、よりよい連携が築けている。	運営推進会議への参加や日頃の報告・連絡・相談等で協力関係の構築に取り組んでいる。今年度は感染症対策の面で特に連絡を取り合うことも多く、協力関係を築くことが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福祉部全体で身体拘束委員会の設置があり3ヶ月に1度は事業所の担当職員が検討会を行い各事業所へ報告を行っている。研修会も開催し、身体拘束はしないという共有認識をもっている。	法改正が行われた際、法人の身体拘束委員会に事業所からも職員が参加している。法人全体で行われる研修会は職員も参加し、研修後は事業所職員での共有は図っている。動画による学びの場作りや助言を頂ける先生からの意見も職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ感染予防のため3密にならないように各事業所において研修を行い職員全員が参加をしており、気づかないうちに虐待が行われていないか話し合い、確認を行っている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、研修する機会はなかったが今後、活用する場面があると思われる。職員全員が制度への深い理解ができるように研修会等の機会をもっていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、本人・ご家族に十分に時間をとり説明を行い契約を結んでいる。状態の変化により契約解除に至る場合は家族と十分相談し、その後の対応も納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃から声かけを行い、本人の思いに応えられるように努めている。ご家族が遠慮なく何でも言えるような信頼関係が築けるように努めている。	例年、家族会や行事の家族招待等で家族とも懇親を深める場を設けているが、今年度は感染症対策の面で開催が難しい状況であった。面会も状況により対策を検討しながら行っている状況である。入居者の生活の様子を毎日記した「暮らしの日記」を担当者から送付し、家族との関わり作りに努めている。	日頃から家族の面会もよく見られる事業所ですが、今年度は面会の対策に苦慮された様子が聞かれました。このような時期、難しい状況とは思いますが、担当者会議等を利用し、家族の意向や意見等を得られる工夫作りに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度はカンファレンスを行いスタッフの意見を聞いている。また、日頃の業務の中でもコミュニケーションをとり、なんでも言える雰囲気作りを行っている。	毎月カンファレンスを兼ねた職員会議には非常勤職員も参加しており、職員の意見を聞く機会としている。毎月の職員会議では「業務改善」も議題としており、職員の休憩体制確保のため事務室の環境整備等、取組みの工夫も行った。	介護を担う職員も入居者も地域で育ち、お互いの支え合いで地域の中でず〜っと過ごせる信頼された事業所であるがうでの課題も見受けられます。事業所のある山間部では少子高齢化が進み介護の担い手不足が押し迫ってきています。理念に沿ったケアが続くためにも法人・職員が知恵を出し合い課題解決への道を切り開かれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因に気を配り勤務中でも気分転換ができるように休憩室を確保したり、日頃より個別に話ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染予防のため3密にならないように月に一度、事業所にて勉強会を行っている。日々のケアのなかでも必要時にアドバイスをし質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、コロナ感染予防のため交流会をする機会はなかったがこれまでに各事業所との関係は構築されておりお互いにサービス向上にむけて意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、必ず事前に面談を行い本人やご家族の思いを伺いホームでの暮らしに不安がないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や不安な点等のをゆっくり伺い、安心して頂き、信頼関係の構築につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り柔軟な対応を行いその時必要なサービスを提案しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安や苦しみ、喜びなどを知ることに努め、お互いに共に支えあう家族として暮らしていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「暮らしの日記」等にて日頃の暮らしを細やかに伝えることで、家族にも共に支えているという認識をもってもらえるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防により、面会や外出もできていないが、安全が確認できれば、これまで構築してきた地域とのつながりをより強いものにしていきたい。	例年、事業所では地域での生活の継続に取り組んでおり、事業所の「思い」には「地域の活動に参加」することも掲げている。今年度は家族・知人等の来訪受入れも難しい状況であるため、定期通院等時の地域住民との関わり等による支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったりしている。個々の性格や個性を把握し楽しく、居心地のいい暮らしの場の提供に努めている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、これまでと変わらない暮らしができるように連携をとり、情報の提供を行っている。 ご家族とも連絡をとり、退所後もできることがあれば支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の思いをくみ取るように心がけている。 意思疎通が困難な方は表情や行動から思いを推測したり、家族から情報を得て安心して暮らせるようにしている。	入居者への日々の関わり・寄り添いの中で意向の把握を行っている。事業所では、従来から「入居者に一日笑顔でいて欲しい」の思いでケアが行われている。入居者の高齢化もあり意向の表出が難しくなっているが、職員間でケアや言葉掛けを話し合いながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしぶりを、本人、家族関係病院や施設より情報提供をもらいこれまでと変わらない暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを職員全員が理解しており、できることに注目し維持していけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、その時の課題や問題等を検討し、本人、家族と相談を行い、負担の軽減できるようなケアに努めている。本人の状態や家族の思いを反映したプランとしている。	職員の殆どが参加する毎月のカンファレンスでは、入居者一人ひとりに対する身体・精神面のケア、オムツの使用状況に関する検討等を行い、共有している。入居者の日々の暮らしを記す「暮らしの日記」を担当制にしており、変化が見られる際には現状に即した介護計画への反映を行っている。	毎月のカンファレンスは充実した内容で、入居者の状況が職員間で共有されている様子が窺えました。介護計画には入居者・家族の意向も取入れられていますが、感染症対策で面会もままならない状況であるため、担当者会議の開催等で、介護計画の家族との共有に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、日々の食事量や水分量排泄等の状態を記録し身体的な把握を行っている。 また、本人の発言やエピソードを記録しその人の思いに添えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より他事業所や病院等との連携に努めその時に必要なサービスが提供できるように柔軟な対応を行っている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ感染予防のため地域の方の慰問や外出ができていない。開設してから16年がたち地域の一員として日々の暮らしができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医として定期的な受診を支援している。病院との連携もとれており緊急時等も適切な対応ができています。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現状殆どの入居者が地域の医療機関を受診している。通院は職員が付添い、連携により休日・時間外の対応も可能となった。専門医への通院は家族介助による通院を依頼している。状況により、訪問看護や往診を受入れた例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に健康状態や変化に応じた支援ができるようにしている。些細な体調の変化を見逃さず、早期受診ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援に関する情報を提供し、随時、回復状態を確認している。日頃から、主治医・看護師とは連携をとり緊急時にも適切な対応がとれるように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は入所時より随時説明を行いホームでできることできないことは明確に伝えている。他事業所や病院との連携もとり、よりよい終末期の過ごし方ができるように支援している。	重度化や終末期に向けた方針の説明は入居前に行い同意を得ている。現状、看取りを前提とした積極的な受入れは行っていないが、体調の変化により、訪問看護や往診等、医療・関係機関との連携で入居者にとつての最善を考えた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し消防署より救急対応の訓練やAEDの操作方法も訓練している。救急対応することもあるが慌てず適切な対応ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熊本震災や熊南地方の水害にて自然災害が身近なことと考える機会となっている。火災避難訓練は年に2回実施し毎年、地域の方や消防団の協力を得ている。	年2回の避難訓練実施時には緊急連絡網により出勤以外の職員も駆けつけ、実践さながらの訓練を行っている。例年地域とも協力出来ている。運営推進会議では災害時における地域との協力についても課題提起され、話し合う機会を持った。	

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の生活歴や価値観を把握し、自尊心を傷つけないような声かけに努めている。特に、排泄時や入浴時の声かけは、他の方にも配慮をしながら行っている。	入居者の「笑顔と思いを大切に」は理念の冒頭に掲げられており、それぞれの場面に合わせた声掛けや対応を行っている。排泄や入浴時の声掛けの他、入居者の高齢化のため声が大きくならいよう等、職員同士で気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく、選びやすいよに選択肢を提供し自分で決めることができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本にはあるがそれに固執することなく本人の思いや体調に配慮している。その時の本人の気持ちを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のレベルに合わせて身だしなみの支援を行っている。自分のこだわりがある方は、その人らしさが保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食センター利用となっているが、日頃よりメニューや好みについては相談しており栄養バランスのとれた食事となっている。カレーや焼きそば作り、作る楽しみも味わうことができ、必ず、職員と一緒にテーブルを囲むことでコミュニケーションをとっている。	食事は配食センターからの提供であるものの、同じ法人の事業所であることから、要望や好み等を伝えることが出来、反映されている。刻み食等々は事業所に対応している。食事時間は「自分でできること」を大切にケアがなされている。毎月入居者と一緒の食事作りの日も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のレベルに合わせた食事形態とし摂取量を必ず記録として残している。十分な食事量や水分が摂れていない時は時間にとらわれることなく好みの物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内を清潔にすることで誤嚥の軽減にもつなげている。		

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記録し、時間をみて声かけ誘導を行っている。トイレでの排泄を大事にし紙パンツやパットの使用も本人の状態に合わせて、随時検討している。	入居者それぞれの状況に合わせた支援を行っている。毎月のカンファレンスで入居者それぞれの心身状態について話合っており、オムツ削減や出来るだけの自立支援についての検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い状態の把握を行っている。体操や十分な水分補給を行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を行っている。本人の希望を重視し、気持ちよく入浴できるようにしている。感染症予防のため汚染時には細目に清拭更衣を行っている。	週2～3回の入浴を基本としており、体調や意向に配慮し臨機応変に支援を行っている。出来る範囲で、入浴後の服を揃える等、入浴に関わる自立支援に向けたケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムが整うように支援している。思い思いの時間に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの内服の内容がわかるようにしており、管理は看護師が行っている。職員全員が内服の内容を把握しており確実に服用できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦として家で支えていた方が多く洗濯物干しやたたみ等の手伝いを負担にならない程度お願いしている。月に一度程度は、食事作りを行い家庭的な雰囲気作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため外出は、病院受診に出かけるのみとなっている。病院の売店にて、好きなものを購入する機会を作っている。	例年、季節行事の外出や近隣への散歩等、計画だけでなく日常的な外出も個別に行っているが、今年度は感染症対策の面から外出が限られ、通院を外出の機会としている。生活の中では、敷地内での畑仕事や花見を楽しむ等で外気を感じる機会を作っている。	

グループホームやまびこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて自分で管理することで安心や満足感をもって頂けるように支援している。 病院の支払い等ができる方は見守りの中で支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっておられる方もおられ好きな時間にご家族と連絡をされている。 希望があれば、時間をみて電話もでき年賀状を家族に宛てに毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは戸惑いのないようにすっきりと見慣れた空間とし、思い思いに過ごせるようにソファを配置している。 古いタンスを置いたり、季節ごとに貼り絵を作り季節を感じれるようにしている。	毎朝の掃除が行き届いた事業所内は温湿度も管理されており、時代を感じさせる家具等の設置で落ち着いた雰囲気を持つ。数々置かれたソファで過ごす入居者の姿も穏やかである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的な作りで全てが視野に入りやすくなっているのが好きな場所で一人で過ごすことも皆さんと過ごすこともできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスや寝具を準備して頂き住み慣れた自宅のような環境作りをしている。 家族の写真や大事にしている物を飾り安心過ごせるようにしている。	居室には入居前から使い慣れた筆筒や生活用品が多く持ち込まれており、日々の生活が営まれていることを感じる事が出来る。家族との関わりも見られる。日中も居室で過ごす入居者も見られるため、配置には安全を考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとり、何がわかりにくいのかを考慮し状況に合わせた環境整備を行い安全に暮らすことができ、できることの維持に努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまびこ

作成日 令和 3年 1月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	これからの事業所を担っていく後継者不足。	若い職員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ J A の正職員として専門職の雇用を訴えていく。 ・ 職員の労働条件・環境の改善を訴えていく。 ・ 職員の異動 	早期に
2	26	家族の思いや意向を聴く機会が少なくなっている。	家族・職員がチームとして入居者のよりよい暮らしを支える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族へ書面にて、思いや要望がいえるような工夫をする。 ・ 家族の参加がある会議の開催をする。 	早急に
3	4	地域とのつながりが希薄になりつつある。	地域密着型サービス事業所としての意義を再確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営推進委員会の開催 ・ 運営推進委員会が書面の場合、意見や質問ができるような工夫をしていく。 ・ 地域とのつながりの再構築に努める 	直ちに
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

